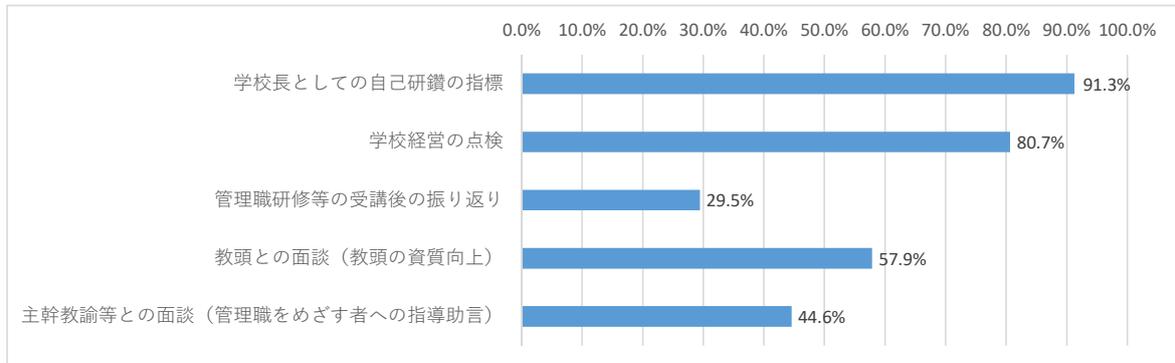


## 令和6年度兵庫県管理職資質向上指標及び兵庫県教職員研修計画に関するアンケート回答結果

調査期間 令和6年8月1日(木)～8月30日(金)  
調査対象 県内公立学校長998校(神戸市立学校を除く)  
調査方法 Webにて回答  
回答数 有効回答997校(回答率99.8%)  
(小学校553校 中学校257校 高等学校148校 特別支援学校・養護学校39校(小・中は義務教育学校含む))

### ○「管理職指標」について

#### 1 どのように活用されていますか(複数回答可)

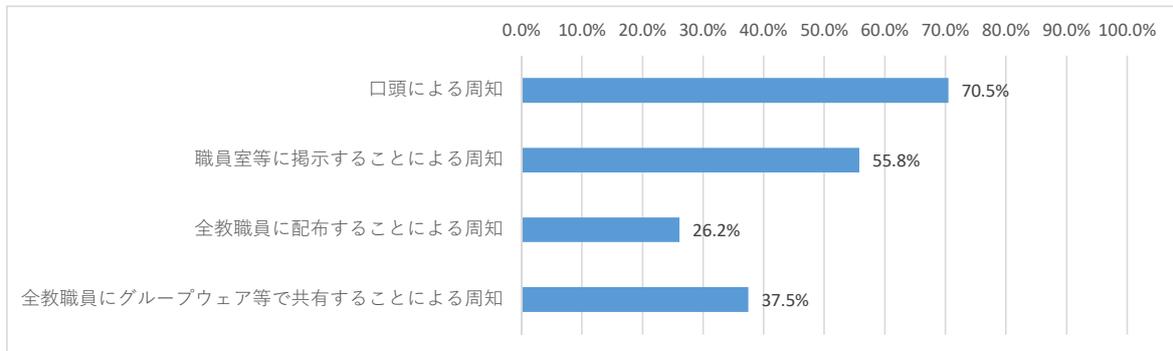


#### 2 「管理職指標」についての主な意見

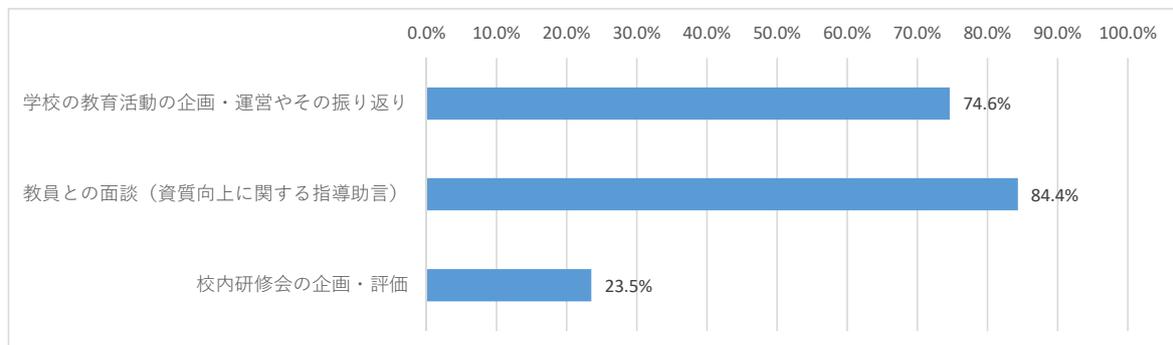
- 分野別に必要な資質が整理されているので漏れがなく確認できるのでありがたい。
- 管理職の資質能力について、一定の水準を示し、自己研鑽の動機付けとなっている。
- 学校運営を行っていくうえで、兵庫県が求める管理職としての素養を確認しながら進めていくことができるので、大変役立っている。
- 管理職受験者が少ない現状において、管理職候補者の発掘や育成という指標もあっていいのではないかと。

### ○「教員指標」「研修計画」について

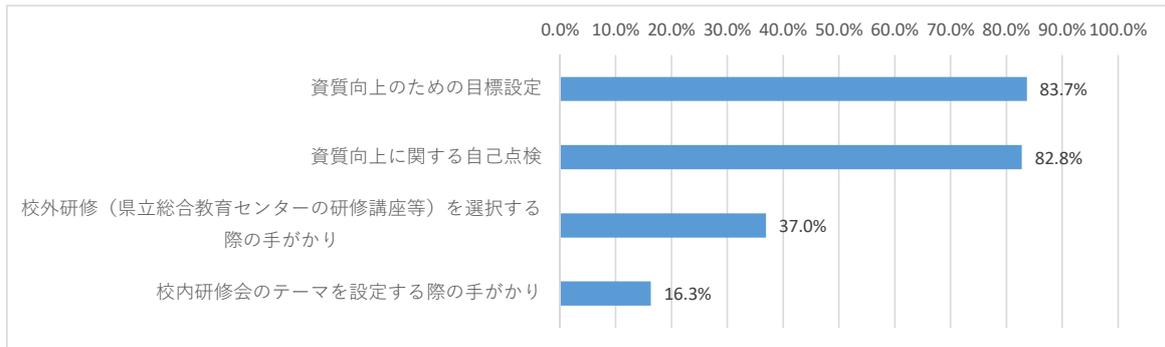
#### 1 教職員へはどのように周知されていますか(複数回答可)



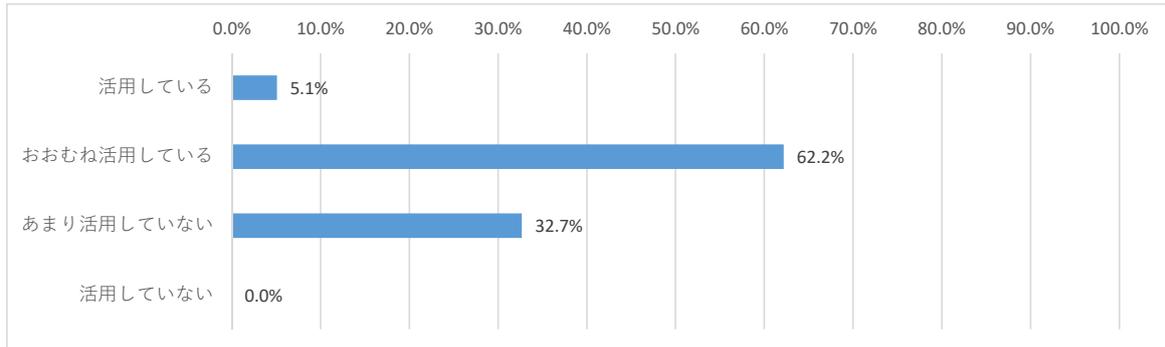
#### 2 校長先生御自身はどのように活用されていますか(複数回答可)



### 3 教員へはどのような活用を提案されていますか（複数回答可）



### 4 教員の活用状況についてあてはまるものを一つお選びください

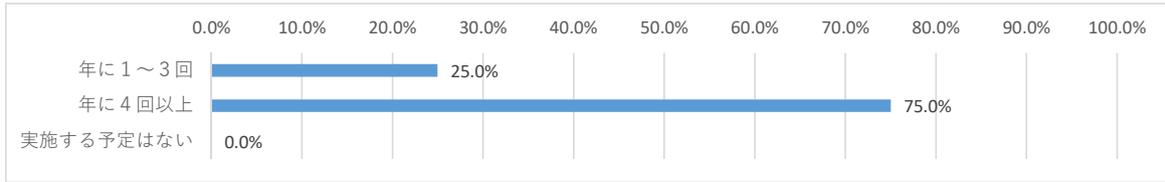


### 5 「教員指標」または「研修計画」についての主な意見

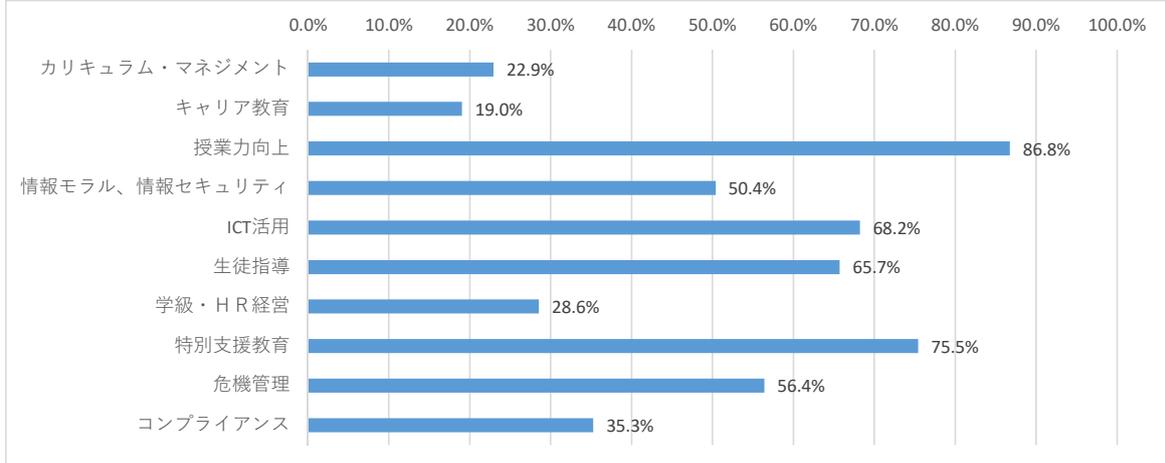
- 素質をもとに、分野や資質、指標、そして、キャリアステージ等、具体的に明確に記載されていて分かりやすいため、教職員が理解し進むべき方向を共有しやすい。
  - 管理職指標と同様に各項目の指標が具体的であり、教員が指標をチェック項目として定期的に振り返ることで、資質の向上を図ることができる。
  - それぞれの教員に対して資質の向上を考えているが、年齢や経験年数を含めて具体的なイメージが持ちにくい状況があるので、大変参考になる。
  - 口頭や面談等で周知はしているが、個々の職員の意識に差があり学校全体に浸透しているとは言えない。粘り強く伝え学校全体で自己研鑽に励む風土作りや個々の教職員のキャリアステージに応じた自己研鑽に活用したい。
  - 採用時の年齢が幅広くなるとともに採用以前の経験が多様化する中で、キャリアステージの区分が必ずしも当てはまらないことがある。
- 令和5年度から始まった、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励（資質向上に関する指導助言）についての主な意見
- 教職員と個別に話をする中で、想像以上に研修に対して関心が高く、学びの機会を求めていることがわかった。
  - 初任研では、管理職からの意見を求められることが多かったのが、初任者とも話す機会が増えた。他の研修も、管理職からの承認を経て、報告書の提出をすれば、研修内容について、職員と話す機会も増えると思う。
  - まだ始まって間もないため、教員の意識はやや低いかもしれないが、それでもやはり昨年度よりは意識づけされている。今後も継続して取り組んでいきたい。
  - 教員は研修の必要性をよく理解しているが、日常の業務に余裕がない。
  - 研修履歴だけでなく、資格取得等も記載された個人カルテのようになるとより使いやすいのではないかと。

## ○校内研修について

### 1 今年度、どの程度実施されますか



### 2 どのような内容で実施しましたか（または実施予定ですか）（複数回答可）



### 3 校内研修の充実についての主な意見

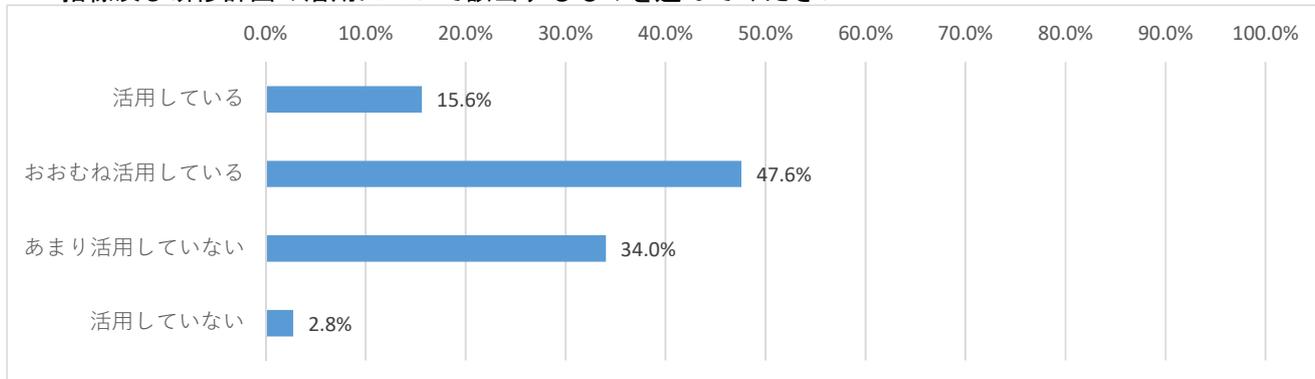
- ・様々な年齢やキャリアを持つ先生方に全体研修を行うことの困難さがあることと、働き方改革による校務の精選をするために研修の重要性を認識させることが課題である。
- ・実際に個々の実践に当てはめて考えることができるように、各教員の事例研究を通して深めていきたい。
- ・無理なく続けられるように、短時間で個々の専門性をいかした研修の機会を設けている。日頃からのチーム制でOJT研修や相互研修の場を確保している。
- ・個々の児童への対応（学力向上、不登校、問題行動等）に追われ、教職員に十分な時間を与えられていない。
- ・校内研修年間計画を作成する際、多種に渡る教育の充実の力点をしぼることが課題である。教職員からの要望も取り入れ重点化を図りたい。
- ・研修時間の確保が難しいため、職員会議や職員朝礼等で短時間の研修や周知を行わざるを得ない。

## 兵庫県教員資質向上指標・教職員研修計画及びICT活用に関するアンケート回答結果

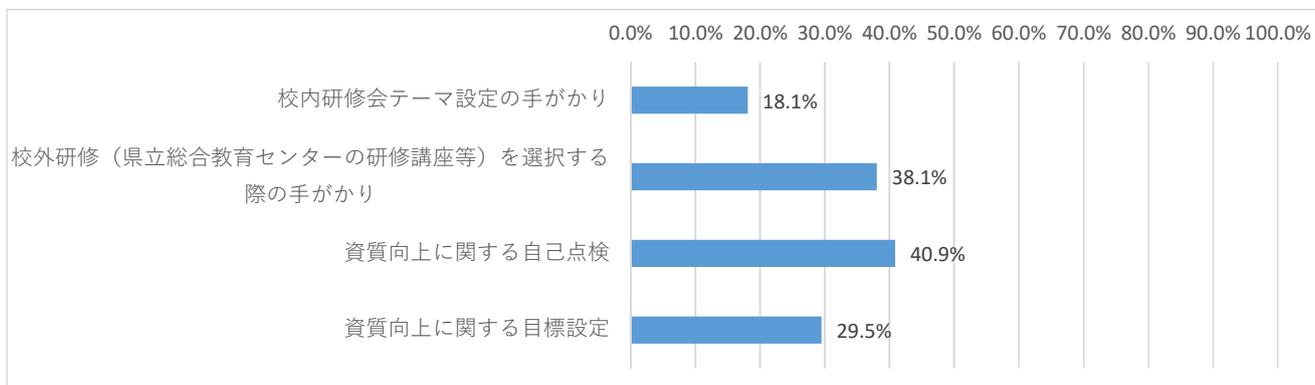
調査期間 令和6年8月1日(木)～9月30日(月)  
 調査対象 研修講座受講者  
 調査方法 Webにて回答  
 回答者数 1017 (小学校171 中学校165 高等学校516 特別支援学校165)

### ○「教員指標」「研修計画」について

#### 1 指標及び研修計画の活用について該当するものを選んでください



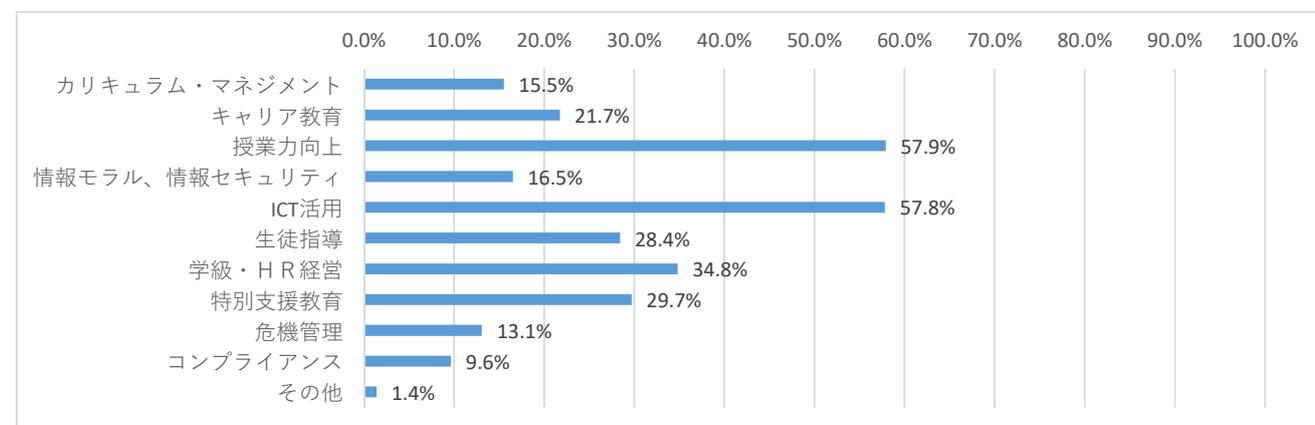
#### 2 指標及び研修計画の活用目的は何ですか（複数回答可）



#### 3 「教員指標」または「研修計画」についての主な意見

- 初任者研修等の年次研修では、1年間見通しを持ちながら取り組むことができる。
- 基礎的な知識を習得することができる。

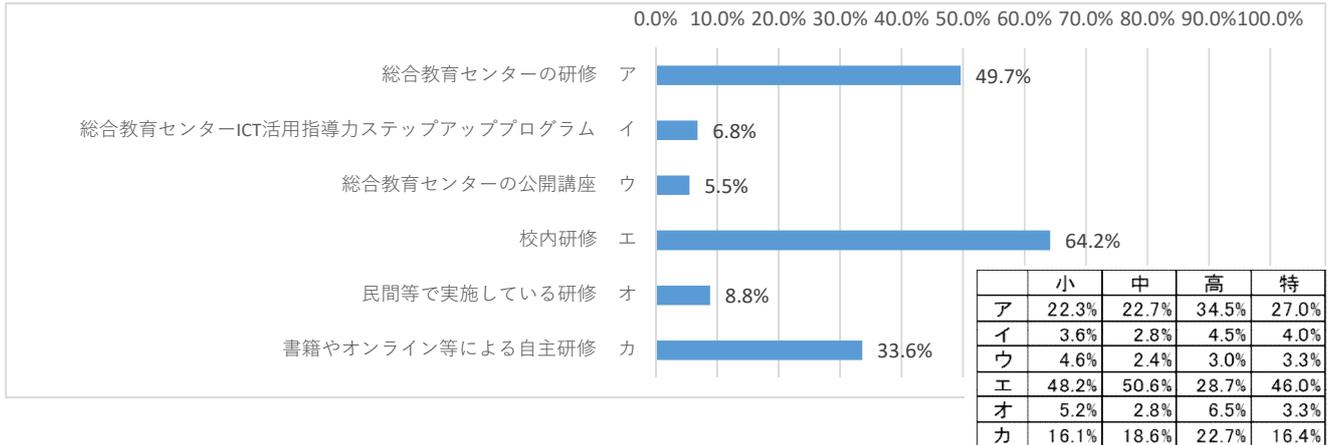
#### 4 今後、どのような研修を受講したいと思いますか（複数回答可）



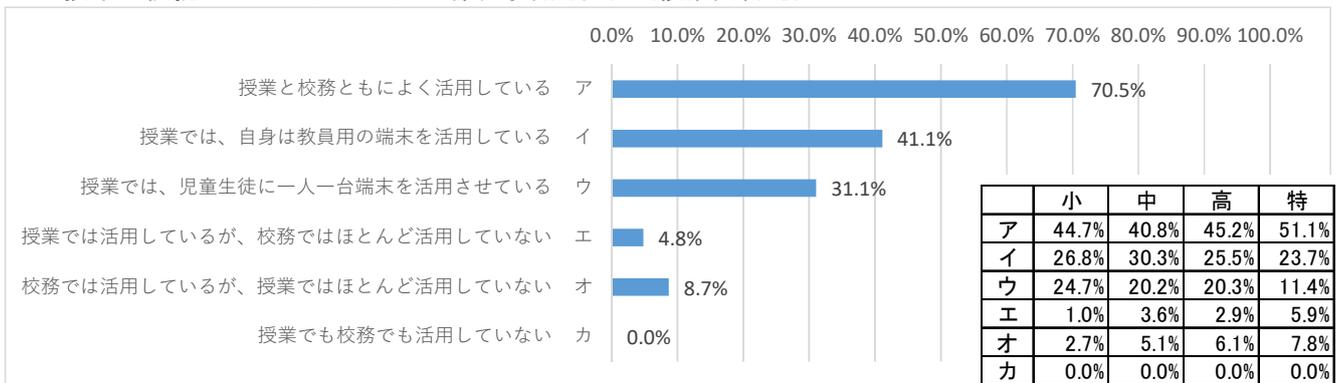
その他 教育法規、探究活動、多文化共生教育、日本語教育、性教育、保護者対応・支援、関係機関との連携

## ○ICT活用について

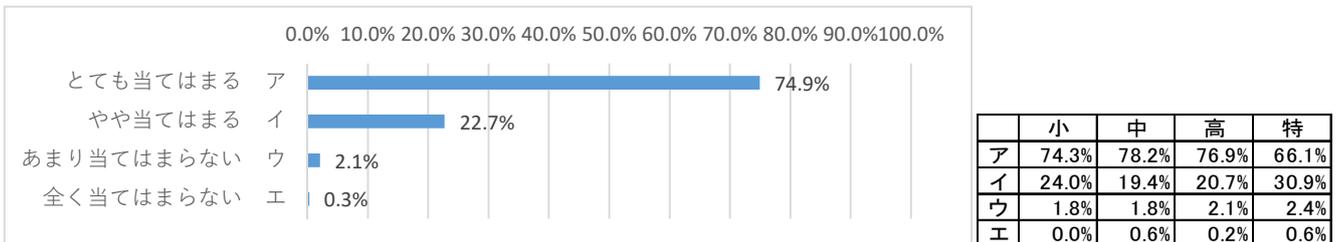
### 1 自身のICT活用能力を向上させるための手段（複数回答可）



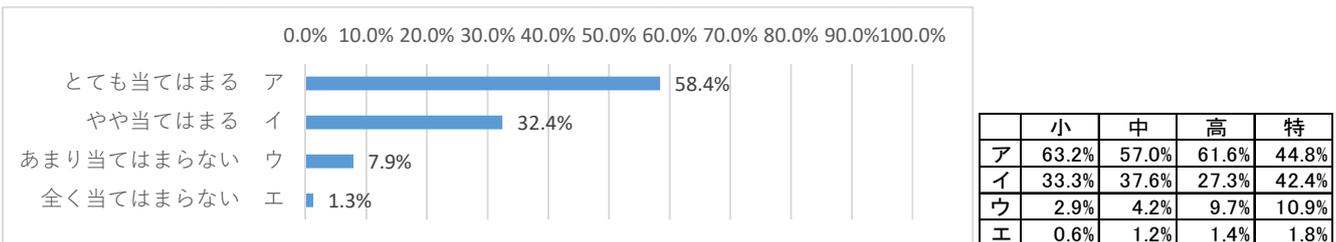
### 2 授業や校務でのPC・タブレット端末等活用状況（複数回答可）



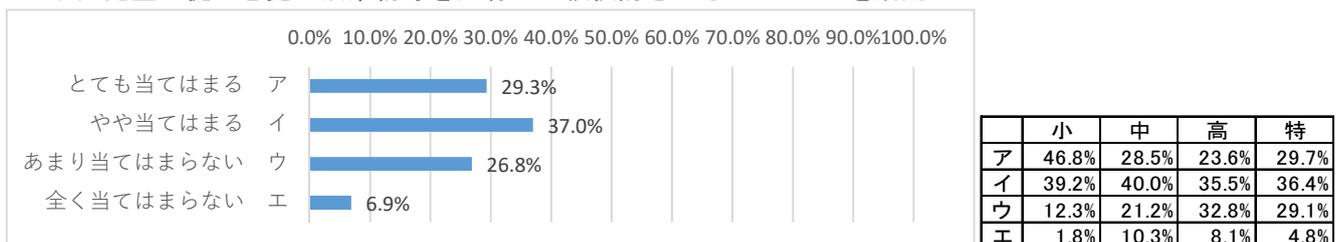
#### 2 (1) 教材研究・指導の準備・評価・校務でICTを活用



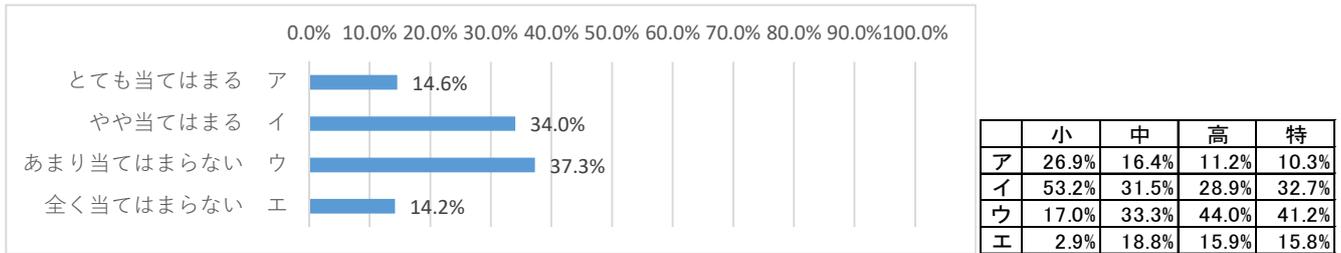
#### 2 (2) 資料等を投影する等、児童生徒の興味・関心を高めるためにICTを活用



#### 2 (3) 児童生徒に意見や成果物等を共有・比較検討させるためにICTを活用



2 (4) 児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題等に対応するためにICTを活用



	小	中	高	特
ア	26.9%	16.4%	11.2%	10.3%
イ	53.2%	31.5%	28.9%	32.7%
ウ	17.0%	33.3%	44.0%	41.2%
エ	2.9%	18.8%	15.9%	15.8%

【参考】令和5年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（令和6年3月1日現在）[確定値]

○都道府県別「教員のICT活用指導力」の状況（「できる」若しくは「ややできる」と回答した教員の割合の大項目別平均）  
【令和5年度において授業を担当している教員】

		県平均	全国平均
<b>A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力</b>		90.1%	89.6%
1	教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	91.2%	
2	授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。	90.1%	
3	授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	93.5%	
4	学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	86.5%	
<b>B 授業にICTを活用して指導する能力</b>		80.2%	80.4%
1	児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	89.2%	
2	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	79.4%	
3	知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。	77.3%	
4	グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	76.5%	
<b>C 児童生徒のICT活用を指導する能力</b>		81.5%	81.6%
1	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	86.0%	
2	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	87.0%	
3	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	78.4%	
4	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	74.5%	
<b>D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力</b>		87.2%	88.1%
1	児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	88.6%	
2	児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	89.2%	
3	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	84.4%	
4	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	86.0%	